

ラグビー熱の低い中部地区で、男子の少ない商業高校を率い、夜回りまでして日本一に導いた山田耕二さん(73)。愛知・西陵商(現西陵高)を中心に29年間に及ぶ教師生活を生徒たちとのエピソードをまじえ、連載する。



夜回り
山田先生
西陵商ラグビー部元監督

▶1◀

日本で開催される2大会が大きい。019年ラグビー・ワールドカップ(W杯)知県勢。苦戦を強いられる中、私は18年前に西陵商ラグビー部監督としてシナムが3月に決定した。愛知県のラグビーは、特に高校では関東、関西、九州に比べる。活躍が目立たない。それでもW杯が誘致できたのは、トップリーグで活動するトヨタ自動車を始め、県のラグビー関係者の尽力は各家庭を訪問し、保護

練習と家庭訪問 一日も欠かさず

者と話す。29年間の教師生活で1日も欠かさず練習を続けてきた。どうしてそこまでするのかと思ふ方もいるだろう。で

の高校3年間は非常に重要だ。過ごし方によって、その後の人生が大きく左右される時期なのだ。例えばコンビニの前でたむろして夜遊びを繰り返す。または、何かしら目標を持って、つらいことは踏み張り、やりたいことをやり抜く。時間はどちらも「3年間」だ。誰だっていい人生を送りたい。その基盤を作るため、ラグビーを通じて



元西陵商ラグビー部監督の山田耕二さん＝愛知県で

◆山田耕二(やまだ・こうじ) 1942(昭和17)年5月23日生まれ。名古屋出身。名古屋立工芸高から日体大へ進学。2年生時に日本代表メンバーに最年少選ばれた。卒業後は愛知県で教員となる。74年、西陵商に赴任し、ラグビー

社会性を持った人間に育てたかった。だから私は生徒たちの人生を全力で応援してきた。定年後はトッパーラグ自動車機械の総監督などを務め、現在は愛知県弥富市の老人ホームで理事長を務めている。73歳になった今、人生を振り返り、改めて思う。人生は後戻りができない。また、人生は曲線だ。生まれ成長するに従い上昇し、老いて死ぬまでにまた下っていく。虹のような放物線を描く。いかに大きな虹を描けるか。

29年間全力で生徒の人生応援

女子並みの小さな弁当や菓子パンに驚き



◆山田耕二(やまだ・こうじ) 23日生まれ。73歳。74年、西陵商ラグビー部監督に就任以降29年間で全国高校ラグビー大会に19回出場、97年には愛知県勢として史上初の優勝。豊田自動車機械総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

たちに「これだけしか食べないのか。栄養が全然足りてないぞ。お母さんに頼んでもっと大きなお弁当を作ってもらいなさい」と言っている。しかし次の日も、また次の日も変わらず、小さいお弁当のまま生徒がほとんどだった。私は「おい、お母さんに頼まなかったのか」と問いかける。「頼んだけど、これだけあれば十分ですよって言われちゃった」との返答が...

生徒の親が持たせたお弁当にダメ出しをしたことがある。ラグビーは体がぶつかり合うスポーツ。体格が大きなウエイトを占める。名古屋市立の西陵商(現西陵)は、1学年の男子が30、40人しかいなかった。大柄な男子が何人もそろそろ私立校と

は訳が違ふ。全国大会では「西陵商は軽量商」と陰口をたたかれるほど小さい選手が多かった。そんな環境で勝つには、保護者にも栄養面で協力してもらわねばならない。きっかけはある日の昼休み。時間を有効活用するた

た。しかし次の日も、また次の日も変わらず、小さいお弁当のまま生徒がほとんどだった。私は「おい、お母さんに頼まなかったのか」と問いかける。「頼んだけど、これだけあれば十分ですよって言われちゃった」との返答が...

「軽量商」脱却へ弁当改革

た。しかし次の日も、また次の日も変わらず、小さいお弁当のまま生徒がほとんどだった。私は「おい、お母さんに頼まなかったのか」と問いかける。「頼んだけど、これだけあれば十分ですよって言われちゃった」との返答が...



夜回り
山田先生
西陵商ラグビー部元監督

▶2◀